

令和5年度第2回 社会教育委員の会・公民館運営審議会 議事録

日時：令和5年9月20日（水）13：30～

場所：わかくさ・プラザ 学習情報館 2階 ギャラリー

出席者：

（関市社会教育委員・公民館運営審議会委員）

出席者：花村 英泰、清水 宗夫、道家 直樹、大塚 雅之、西田 英子、土屋 昭代
大坪 博子、長屋 芳子、三島 善伸

欠席者：古川 雅志、鈴木 幸子、早川 貞子、長谷部 弥生、太田 尚文、鷺見 花実子

（事務局）

協働推進部：協働推進部長 相宮 定
協働推進部：生涯学習課長 中村 亜由美
協働推進部： 深川 理代

委託事業者：（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 高田 笙子、植村 優子

1 開会

（事務局）

時間になったので、関市社会教育委員の会を始める。会議に先立ち、関市民憲章・生涯学習都市宣言の唱和を行う。

（全員で市民憲章・生涯学習都市宣言の唱和）

（事務局）

会に先立ち、相宮協働推進部長よりあいさつを申し上げる。

2 あいさつ

（協働推進部長）

本日は、関市生涯学習まちづくり推進計画骨子（案）について説明をさせていただくので、忌憚のない意見を賜りたいと思っている。

市長が明日任期を終える。多くの場で話をする機会が多いが、とりわけ学生や若者の前で「人、本、旅」の大切さについて話をすることがある。人が心豊かに充実した人生を送るには、多くの知識を蓄えて考える力を磨いていかなければならず、そのためには「人、本、旅」が非常に大切であるという話である。このことは、ライフネット生命の創業者である出口治明さんの本に書か

れていることで、市長が自分で解釈し、いつも話をしている。「人は人から最も多くのことを学ぶ。だから、できるだけ多くの人と出会い、その出会いを大切にしてください」ということである。ただ、人には出会える範囲が限られ、海外など遠方の人、亡くなった人、昔活躍した人、大昔に大きなことを成し遂げた人たちなどは会うことができない。「そういう人からは本を通して学んでください」ということである。そして、人と本以上に自分が見たり、聞いたり、感じたり、触れたりすることが最も学びが得られるといわれている。自分の領域を飛び出し、旅をしてより広い世界、世間という大きな書物から学びを得てほしいということである。学生や若い人には時間があるため、「人、本、旅を大切に」といつも話をしている。ちなみに、市長は多いときで年間 250 冊以上の本を読んでいるという。これまでも機会があれば、できるだけ多くの人と会うように努められてきた。明日退職するが、来月から約 2 カ月にわたって 1 人で世界一周の旅をするという。まさに「人、本、旅」を実践していると思う。

市長のこれまでの市政では、経済、学校教育、文化・スポーツに力を入れ、人や本からの学びを大切にすることが根底にあるのではないかと思った。生涯教育、社会教育も学びがもとであり、大切さを実感したところである。貴重な時間だが少々触れさせていただいた。この後、担当から資料の説明があるが、忌憚のないご意見をお願い申し上げて、あいさつとしたい。

3 議事

<事務局より、資料 2 について説明>

○関市生涯学習まちづくり推進計画骨子（案）について

○関市生涯学習まちづくり推進計画施策体系（案）について

（清水議長）

令和 6 年から 10 年間の考え方と方向を示した骨子だが、これまでの反省を含めた意見があればと思う。骨子（案）には SDGs など、これから時代に合った項目も網羅して入っている。この場で決まるわけではないので、忌憚のない意見を出してほしい。

（三島委員）

素晴らしい計画と思う。具体的な細かな点は、今後の行政の取り組みにかかってくると思う。計画案では配慮されており、一人一人が実感できていけばいいと思うが、各地域にある、ふれあいまちづくり推進委員会との連携はどう考えているのか。

（事務局）

資料 2、施策体系（案）の「取組 9 ふれあいセンター・生涯学習センターの活用」で、両センターの運営の充実、利用促進、さらに「13 巡回講座の実施」でふれあいセンターでの巡回講座の開催が取り組みとして入れている。

ここは弱い部分であるため、ふれあいセンターの管理は担当の市民協働課と連携して取り組みを進めていかなければならないと考えている。講座などは行っているが、大きくタイアップした

部分が少なく、計画に盛り込んだところで取り組みをどのように進めることができるか、相談していきたい。

(三島委員)

今年重点的に取り組んでも、次年度に違う事業が出てくるとなると、どうなのかと思う。担当が代わると計画が変わる危険性もある。チェックとプランの繰り返しが大事になる。

(事務局)

今回の計画は、総合計画の下に位置付けられる生涯学習分野の個別計画になる。総合計画に基づき実施計画を作り、先を見据えて毎年ローリングして、次年度以降の事業実施を考えている。

その中で、新たに必要となる事業を実施計画に盛り込みながら、その都度修正しながら先の計画を立てて事業は進んでいく。生涯学習の計画も今回ここに盛り込まれていなくても、新たに必要になったり、時代の変化に対応して予算化しなければならない場合は盛り込み、先を見据えてローリングしていく。あまりにも大きな変化があったり、計画自体を見直す必要がある場合は、10年の計画期間中に適宜見直していく。

(清水議長)

子どもたちの体育や文化的な部活は、生涯学習の立場ではどういう観点から支援ができるのか、考えはあるか。

(事務局)

この計画から外れるかもしれないが、施策体系（案）にある「19 地域学校協働活動の推進」から大きく外れない分野の話と思われるので、生涯学習として取り組みを載せるならば、この分野に入ってくると思う。しかし、どの課が行うか、移行の方向性などが定まっていない。

(清水議長)

道家さん、スポーツ関係でのご意見はあるか。

(道家委員)

現在、推進課と教育委員会と協議しており、最終的に決まっていないとの中間報告は聞いている。

スポーツ協会には33団体あり、野球であれば市野球連盟が面倒を見るなど、どのようにいくかは定かではなく、移行の段階とだけしか聞いていない。部活というと、体育ばかりを思われているが、文化系の部活も先生の負担によって成り立っているため、地域社会への移行ができるか疑問である。スポーツの関係で活動している団体が、中学生の面倒を見ていくことができるかなどの問題もある。

部活の地域移行は簡単にいわれるが、難しい。生涯のまちづくりの関係の文化系、体育系の部活についても、ここの部分の地域、学校協働活動の推進と一言でいわれるが、実際に何を行うかという具体案になると非常に難しく、この場で結論を出すことはできない。地域移行の関係の協

議会で行っている部分を見ていくしかないと思っている。

(事務局)

部活動の地域移行に関して、学校教育課とスポーツ推進課で立ち上げた協議会に、生涯学習課も3回目から社会教育の視点から参加する。この件に関しては、次回報告もできると思う。意見があれば、それをもって会議に臨みたいので、願います。

(清水議長)

具体的な内容があると分かりやすく、意見が出しやすい。

(長屋委員)

個人がどういうところで関わっていくか考えたが、整理できていないので今は言えない。

(大塚委員)

趣味の音楽のサロンなどに出かけたりするが、参加しているのは女性ばかりで、高齢の男性がいない。短歌や音楽を会場で行うには会場費と、特にエアコンの費用が結構かかる。そうした経済的な負担と高齢男性を引っ張り出す計画であったり、こちらから積極的に向かう企画を具体的に織り込んでほしい。費用も補助ができなければ、文化協会の会員は割引を大きくするなど、スローガンだけでならない具体的な働きかけが欲しい。

(事務局)

次回は計画案として、具体的で細かな取り組みや課題が出せると思うので、意見を頂きたい。

(土屋委員)

小学生相手のふれあいクラブのコーディネーターをしている。コロナ前は、2小学校で100人の児童の3割が入っていたところ、コロナで3年間休んだことにより、今年は8人の応募しかなく、実際には6人しか来なかった。子どもたちが習い事やスポーツクラブに入ったため、ふれあいクラブに来なくなったのではないかと思ったが、学校も理由はつかみきれず、子どもたちはどこにいったのか疑問に感じている。スポーツクラブやピアノのレッスンなどに参加してくれていればいいが、一度アンケートを採って子どもたちがどこにいるのか、具体的に調べなければいけないと思っている。

また、今夏はふれあいクラブとPTAがコラボして星の観察会を実施し、大人、講師を含め100人近くが集まった。同じように募集のチラシを作っているのに、なぜこうも違うのか疑問だけである。今後どう取り組んでいこうかと考えている。

「せきてらす」や文化会館でも展示機会があり、訪れたこともあるが、中ががらんといしていたため、何が足りないのかと思っている。市で開かれるさまざまな講座にも出ているが、いつも同じ顔ぶれであるため、もっといろいろな人が参加できればと思っている。

(清水議長)

生涯学習については、冒頭唱和した内容に網羅されているが、言うことと行いは違って、体についていけないこともあると思う。

(長屋委員)

4 ページの視点にある『人』を豊かに』『まち』を豊かに」は分かるが、地域のことを具体的に考えると、地域によって住んでいる人は違うし、男性が出てこないのは必要感が無いからだと思う。講座にしても行きやすいところと、行くには大変なところがある。知ってみたい、やってみたいとは思いますが、次の段階に行くにはいろいろな障害が出てくる。そういうところで計画を立てているが、来る人は次第に限られ、行事は開いたもののスッキリしないとの反省も見られた。それを乗り越えるために、まちづくりに投げかけて、どう具体的にすることが問われる。

スポーツにしても同じで、部活を地域に持っていっても、多くの指導者がいるところはいいが、地域によっては限られているところもあり、いろいろな問題が出てくる。地域それぞれの良さを生かすために、計画段階で地域のメリット・デメリットを出して、地域で自立できて人が育ち、生き生きしてくることが課題になる。そういうことをプラスアルファで付け加えてほしい。計画にはいい言葉が書かれているが、勝手に解釈できるところがある。

(西田委員)

計画は10年ごとに策定・更新されていくが、10年前は60歳くらいで定年の区切りがあり、六十数歳の人たちがいろいろな活動に参加していた。しかし今は、70歳過ぎても働く人が多い時代へと変わってきた。そのため対象者を前と同じとみていくと、勤める人が多い分、参加できる人は少なくなる。そうすると、講座などいろいろな活動に参加したいと思っても、平日は仕事があつて駄目と様子は変わってきている。対象者が狭まり、計画はそういうところもくみ取る必要があり、10年前と同じ目線ではどうかと思った。

(清水議長)

指摘のとおり、時代が変わって対象者も変わり、物事を過去のとおりに行っている時代には合わないところも出てくる。計画は10年間で見直すことになっているが、その10年間に長いか短いかということにもなると思う。今では、ジャニーズで注目された性被害にからむ尊厳や人権は、これまで思っていなかったことであり、避けて通れない問題になったと思う。SDGsもあるが、人を敬うことを考えると、人権問題も入れておかないといけないと思った。

(大坪委員)

指摘があったように、いろいろな講座や趣味の集いに男性の姿が少ない。女性は女性同士で一緒にすることに抵抗はないが、男性の場合は誰かと協調して何かをするのではなく、自分の好きなことを自分の時間でやりたいという人が多いのではないかな。私はフルタイムで勤めていたので、どこに行くにも、サークル参加も苦にならない。仕事をしていたときにできなかったこと、仕事を辞めた後にやりたいと思っていたことを今、実行している感じである。組織の中に入って何かをするのではなく、自分が選択して何をしたいのか、今は自分が思うことをしている状態で満足している。

(花村委員)

施策体系の中の内容は、今後具体的ににならないと議論はできない。例えば ICT のメニューを豊富にそろえても、その環境が整っていない人はいつまでたっても受講、体験できない。そう考えると、ICT に弱い人や環境の整っていない人にどう手を差し伸べるかを入れていかないと、生涯学習にはなっていないと思った。

先ほど小学生がどこに行ったのかという話が出たが、そのとおりだと思う。土曜日や日曜日は休んだりする児童が多く、全員がその日の活動に参加することはあまりない。スポーツ少年団に行ったり、家族で旅行に行くなど理由はさまざまである。生涯学習は人生 100 年の中で、子どもから大人までが学習を充実させ人生を豊かにしていくことだが、少子高齢化の進んだ社会の中で、これから社会を背負う子どもが生涯学習の大切さを味わっていくことが大事ではないかと思っている。

そういう意味では、地域のお年寄りたちが学習しているメニューが学校で活用できるものであれば、学校とコラボしていくことも必要ではないか。さらには、地域学校協働活動の主は子どもの成長である。大人の都合ではなく、子どもに合わせながら交わることができれば、子どもは「こんな世界がある」「大人たちもこうして勉強している」と学び、「自分もこういう大人になりたい」との気持ちを子どもたちの中につくりたい。そう考えると、交わるような取り組みが必要ではないかと思った。

(長屋委員)

今は学校が地域に連絡して行っているが、学校や老人会と、地域の自治会とそれぞれ連絡を取るなど、1 カ所で連絡調整する総合的な機関が位置付けられれば、活動は下へ浸透していくのではないか。現状はバラバラで長期の展望が難しいため、連絡調整を行政のラインで行えばうまくいくと思う。

(花村委員)

地域コーディネーターの存在が弱いと思う。施策体系(案)に「地域学校協働活動の推進」で「地域、学校、家庭の連携による子どもたちの成長支援」とあるが、ここに地域コーディネーターの育成という内容も入るといいのではないかと思う。

(土屋委員)

友人が地域のコーディネーターになり、学校からミシンの使い方を教える手伝いをしてもらえないかといった話を聞くことがある。学校との間を取り持つ、地域に根差したコーディネーター的な人を養成していくことが大事だと思った。

(三島委員)

地域のニーズは年々それぞれ違っている。それを全部行政が配慮するには限界があるため、幅広く提起をして、その後は自らが動いていくことになる。行政に動いてほしい、こういうことがあればいいと思うことも大事だが、地域の周囲の数人と取り組みを始め、その後、行政に資金的

な援助を相談しながら進めていかないと、行政もお手上げになってしまう。

大きな骨子については相談することも大事だが、地域の社会教育委員として地元ニーズについて相談を受けたりした場合、ふれまちや行政に連絡するなどコーディネーターの1人として動けるようにし、すべてを行政任せにしてはいけない。社会教育は本来自分たち一人一人が動くことが大事で、待っていて上から棚ぼた式に動くことではない。その辺りも私たちも考えていかなければならないと思った。

(長屋委員)

コーディネーターなり、総元締めを1人つくれば良いと思う。各学校、各地域で違って当たり前であるため、どこかで手綱を取ってくれる人がいれば良いと思う。今言われたことは、学校協働のコーディネーターが別ででき始めている。地域がしやすい組織づくりをすると、今よりもよりよく浸透していくのではないかと思う。

(清水議長)

次回も議論してもらうことになると思うが、本日は大体ご意見を頂いた。またご気づきの点があれば、事務局にご連絡していただきたい。

(三島委員)

今年の夏は非常に暑い中で、子どもたちがサッカーなどスポーツをしていた。近所で草刈り中に亡くなった人がいる。気温や湿度の条件などで外出を控える旨の放送を流したり、外に出るのは禁止したりする呼びかけを行ってもらうのはどうかと思っている。

(事務局)

意見として承り、スポーツ推進課に伝えておきたい。

(清水議長)

手元の資料については意見を頂き、終了させていただく。事務局から連絡事項はあるか。

4 その他

(事務局)

10月20日(金)に公民館研究集会岐阜大会と東海北陸の公民館大会岐阜県大会と、社会教育の岐阜県大会の3つを兼ねたものが行われることになり、案内をさせていただいた。市役所からバスで行く予定で、市役所に集合していただく。出発時間を調整していないので、詳しくは言えないが、受付は9時45分からで8時半ごろの集合になると思う。出発時間や集合場所などの詳細は案内する。東海北陸の社会教育大会の福井大会は、10月12、13日に案内が来ている。こちらでも集合などについて調整したい。

(清水議長)

東海北陸の公民館大会では、地区の公民館の代表が提言発表することになっている。

5 閉会

(生涯学習課長)

本日はそれぞれの立場でご意見を頂き感謝申し上げます。市にはたくさんの計画があり、今日の資料にも、総合計画をはじめいろいろなものがある。

総合計画は現在、後期計画が始まっている。昔は生涯学習をまちづくりに生かす人材を育てることが主だったが、新しい後期計画では、自分たちが楽しんで、生き生きと暮らすことが大事であるということに少しずつシフトしてきている。教育委員会にある教育振興計画も少しずつ変わってきている。関市もコミュニティスクールを始めているが、学校運営協議会がきちんと位置付けられ、学校と地域の協働を教育委員会の計画でも触れている。そして、生涯学習の視点でも、生涯学習まちづくり計画なので、ここに盛り込んでいく。

これからは子どもを介して大人がどれだけ関わり、自分の学びにつなげつつ育てていけるかが大事だと思う。この計画作りはどこの市町にもある計画ではなく、関市には合併した地域ごとの諸事情も含めた特徴もあるため、意見を出してもらいながら計画として1本にまとめていきたい。

次回、11月に予定している会議では全体の計画案を提示したいので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

以上